

事務事業名		河川維持管理事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総合計画体系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち《定住環境》		所属G	公共土木G	課長名	渡部 克彦
	施策名	(10)環境の保全・創造		担当者名	松村直樹	電話番号	0854-40-1063
	目的:対象	市民	意図	地域環境を守り、地球環境に配慮した生活をおくる。		(内線)	2471
	基本事業名	(030)生活環境の保全		予算科目	会計 014002	大事業名	河川施設管理事業
目的:対象	市民	意図	生活環境を保全する。		項目	中事業 河川維持管理事業	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H29 年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 市河川の維持管理(護岸補修や堆積土の除去等を実施する。)

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R元年度実績 (R元年度に行った主な活動) ・市管理河川内の補修及び市河川の堆積土の除去(17箇所) ・山の谷川流路工設置工事 ・堤谷川沈砂池設置工事	R2年度計画 (R2年度に計画する主な活動) ・市管理河川内の補修及び市河川の堆積土の除去(12箇所)			
	② 活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
ア	市管理河川数	m ²	477	477	477	477
イ						
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	市管理河川及び地域住民	③ 対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	ア	実施河川数	箇所	13	10	19	12	
	イ							
	ウ							
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	河川維持管理により公共水域を保全する	④ 成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)	
ア	環境美化等の環境保全・創造に向けて何らかの取り組みをして	%	71.3	70.1	67.6	67.6		
イ	自然環境が守られていると感じる市民の割合	%	72.3	74.5	69.3	69.3		
ウ								

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (1年度決算)	② コストの推移	単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)
【内訳】 ・修繕費(16箇所) 3,633千円(市内河川補修及び土砂撤去等) ・委託費(1箇所) 1,020千円(市内河川補修) ・工事請負費(4箇所) 18,836千円(市内河川補修及び土砂撤去) ・公有財産購入費(3箇所) 4,464千円 ・補償金(1箇所) 250千円(建物補償) 【地方債】合併特例	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円		2,700	22,700	
	その他	千円				
	一般財源	千円	9,199	10,364	5,503	5,000
	事業費計 (A)	千円	9,199	13,064	28,203	5,000
	人件費	人	2	2	2	
	正規職員従事人数	時間	160	200	200	
	延べ業務時間	千円	652	866	848	
	人件費計 (B)	千円	9,851	13,930	29,051	
	トータルコスト(A)+(B)	千円				

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・市河川の維持管理を適正に行うため、河川維持要望の中で緊急性の高い箇所から実施しているが、多数の要望があるため十分な対応ができるか懸念される。 ・全国的に災害の発生により、対応が求められている。	・平成27年度までは、各総合センター事業管理課ごとに事業実施に取り組んできたが、平成28年度からは、建設部建設工務課に集約し、事業を実施している。	・市河川内の補修や土砂撤去については、多数の要望があるため、継続的な対応が求められている。 ・議会より起債事業活用の提言を受けている。

事務事業名	河川維持管理事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	----------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	・緊急性の高い箇所から実施し、将来的な被害時の経費が削減できているため、これ以上の成果向上の余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	・本事業を休止もしくは中止した場合、河川維持管理は進まなくなり、河川の適正な保全ができなくなることから、ひいては、自然環境や景観の悪化、災害につながる懸念がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	被害が大きい場合は、災害復旧事業による対応ができる場合がある。		
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない	災害復旧事業の採択要件を満たさない場合は、対応が必要なため統合できない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	・現地の状況から、最小限の経費でできる工法で対応しているため、削減余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	・平成28年度から、組織機構の見直しにより、各総合センター事業管理課から、業務の窓口が本庁に一本化されたことにより、これ以上の人件費の削減は見込めない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	・市河川の現地状況を精査した上で、緊急性の高い箇所から実施しているため、公平、公正である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		・市河川の維持管理要望は多数あるが、緊急性の高い箇所から順次実施し河川の保全を図っている。また、将来的な被害の拡大をこの事業により未然に防止できるため、成果は最大である。
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持低下</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持低下	●	×			×	×
		コスト																		
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
	維持低下	●	×																	
		×	×																	
<p>・今後も継続的な事業実施を行い、市河川の保全を図ることが必要である。</p> <p>・令和2年度～令和6年度にかけて、緊急浚渫推進事業の河川維持管理計画を作成し、事業促進を図る。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			